

東京都庁

(1)面接の概要・内容

面接日：2022年6月28日（火）

面接官：3名

面接時間：10：15～10：45

面接を行った場所について：部屋の大きさは10m²程、面接官との距離は2メートル。

私：失礼いたします。

面接官A：受験番号と名前お願ひいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくお願ひいたします。

面接官B：着席してください。

私：失礼いたします。

面接官A：ここまで來るのに悩みませんでしたか？

私：はい、とても悩んでしまって、ビルの周りを一周してしまいました。

面接官A：そうなんですね、それはご苦労様でした。

面接官A：それでは1分間で自己PRをお願いします。

私：（答える）

面接官B：面接シートにもありますが、大学で学んできたことについて自分の口から説明してください

私：私は福祉の観点から「防災とまちづくり」について研究しています。防災に力を入れている自治体にインタビューをしたり、街を観察するフィールドワークを主な研究方法として、理想の災害に強いまちづくりについて考察しました。卒業論文では「身体障害者目線から見た公共交通機関とスマートシティのあり方」をテーマにしようと考えています。

面接官B：面接シートに個別塾講師に力を入れられたと書かれていますが、苦労した点はございますか。

私：小中高と教えているので、生徒に合わせて指導方法を変えていました。特に小学生は集中力が続かないで謎解き問題を途中で解かせたりしていました。

面接官B：そうなんですね、先生同士で指導方針を共有していたりしたのですか？

私：いいえ、直接指導方針を共有していたということはありません。しかし、生徒の情報を共有して、代講を頼まれた時にもスムーズに授業を進行できるようにしていました。

面接官B：あなたは塾講師の中でどのような立場でしたか。

私：現在3年間講師を続けているので、先輩として後輩と飲みに行ったりと、先生方の関係を良好にすることに努めています。

面接官B：あなたは友人からどのような性格だと言われますか？

私：よく友人からは、ストイックな性格で、やるべきことを淡々とこなすよねと言われます。

面接官B：それはあなた自身の評価とずれはないですか？

私：淡々とこなすという言葉に冷酷さを感じます。私自身、熱を持って取り組んでいることが多いので、そこが少し引っかかりますが、入念に準備していることが結果として「淡々とこなす」ように見えたということにしてプラスに捉えています。

面接官C：学生時代に力を入れたこととして、学生団体で商店街活性化をしたと書いてあるけど、もう一度自分の言葉で説明お願いします。

私：（説明する）

面接官C：工夫した点はありますか？

私：私は広報班として、様々な広報活動に取り組みました。特に工夫した点は商店街の飲食店に赴き、外観や食べている様子をSNSにあげて宣伝をしていました。SNSを見て参加してくれた方もよくみられたので、イベント集客数向上にもつながったと考えています。

面接官C：民間と公務員の違いを教えてください。

私：私たち目線で見ると民間は普段さまざまな商品やサービスを我々に提供してくれていて、生活クオリティの向上に関わっています。一方公務員は民間だけでは提供できない、道路や下水道整備など我々の生活基盤の構築を担っており、社会全体を牽引する役目を持っていると思います。

面接官C：挫折した経験は？

私：中高6年間ソフトテニス部に所属していたのですが、中学2年の時に膝を怪我してしまい、そこから中学の時はまともに試合にも出られずにペアにも迷惑をかけてしまいました。しかしどうしても諦められず、高校でもソフトテニスを続け、シングルスの道を頑張ろうと決意しました。その結果、高2でシングルスの大会に出場することができました。

面接官C：他に挫折した経験はある？

私：大学3年と夏時点では民間企業を視野に入れて様々なインターンに参加していました。しかし、自分の将来像がいまいち掴めずにいました。そこで就活を一旦ストップしてしまったということがありました。

面接官C：東京都の課題ってなんだと思いますか。

私：福祉の観点から一つ挙げさせていただきます。東京都はハード面のバリアフリーの条例が整っています。しかし、心のバリアフリーはまだ推進する余地があると思います。現在東京都では民間企業の心のバリアフリーの取り組み事例を紹介するところにとどまっているように感じました。東京都が主体となって心のバリアフリーを推進していくことが課題だと感じました。

面接官A：最後に東京都に入ったらやってみたいことはありますか。

私：生活文化スポーツ局で文化振興に携わりたいと考えています。文化事業課では、街中に眠る文化財を都民の皆様に触れてもらうための施策や、公園や駅前などのまちなかに芸術文化の発表の場を増やし、都民みなさんが気軽に楽しむことができる場づくりをしていきたいです。

面接官A：これで面接は以上です。お疲れ様でした。

私：ありがとうございました。失礼します。

(2)面接を終えての印象

一次試験が終わってから2ヶ月間、今回の面接に向けて必死に頑張ってきたので、解放されたという気持ちが一番強かったです。「こんなに面接対策したから落ちるはずない」と思えるほど準備したので、結果を待つ時も一次試験の結果待ちの時よりは緊張せずに待つことができました。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接では想定問答集をたくさん作り、イレギュラー質問にも対応できるようにしていましたが、聞かれた質問は自己PRや志望動機、バイトのことなどシンプルなものばかりで、時事問題や都政について聞かれなかつたので上手くアピールできたか不安でした。模擬面接を通じて自分の口癖を治すということを意識してみると良いです。私の場合、質問を考える時「そうですねえ」と毎回相槌を打っていたことを注意されました。

(4)他受験生の印象

真面目な印象を受けました。また、男女ともに身だしなみも清潔に保っている方が多い印象でした。欠席者は2割ほどのように感じました。

(5)受験生へのアドバイス

面接では都庁に来たことがあるかということが聞かれることがあるそうなので実際に、都庁を見に行くといいと思います。都民情報ルームでは500円ほどで都政の資料を入手できるのでよく活用していました。またリフレッシュも込めて都庁の近くにある新宿中央公園にも行ってみるといいかもしれません。公園内に熊野神社というところがありそこで就職祈願をしました。

会場内は少しだけ暑かったです。ただクールビズをしている人は見たところ一人もいませんでした。